

と、そこには。

無駄な脂肪が一切無い芸術的な筋肉の全裸の大男が、浴槽の壁に片手をついて下を向いていた。

もう片手は…。

思わず声を出しそうになり、慌てて両手で口を押さえる。

もう片手は、大きな自身の分身を握って上下させていた。

サキュパスがデカイと言っていただけあって、赤らんで血管が浮かんで上を向いた棒は太くて長い。

巨根の先割れから、透明な汁がとめどなく滴り落ちている。